

令和5年度
岬町地域福祉計画・地域福祉活動計画推進検討委員会次第

と き：令和5年5月23日（火）
14時00分～15時05分
ところ：岬町社会福祉協議会

配布資料一覧

資料1 住民アンケート調査結果報告書

資料2 地域懇談会（案）について

資料3 子ども懇談会（案）について

資料4 策定スケジュール（案）

参考資料1 岬町地域福祉計画・地域福祉活動計画推進検討委員会委員名簿

参考資料2 岬町地域福祉計画・地域福祉活動計画推進検討委員会設置要綱

開会（14時）

1 委員紹介

2 住民アンケート調査結果報告書について

・事務局より、「資料1 住民アンケート調査結果報告書」を使用し説明。

委員長：回収率について、前回と同等程度だが、18～39歳は他の年齢層と比べ回答者の数が少ないことが気になった。

委員：P30の問14について、安否確認がどちらもトップになっている。特に「手助けできること」は前回よりも増加している。岬町全体の各区の中で、自主防災組織の活動が進められており、中でも安否確認は自主防災組織でも対応できる。消防や警察であっても地域の住民には安否確認では勝てない。安否確認の部分でご意見が多いということは、自主防災組織として調査結果を踏まえ啓蒙していきたい。また、P63の問25の各種活動について、「機会があれば取り組んでいきたい」方が若い世代を含めかなりの割合で見える。かなり心強く感じる。この結果をもとに、参加促進を進めたい。

委員長：ボランティアの取り組みは他の自治体の調査でも、参加してなくても参加したいという方は多いと感じている。時間がないとか仕事をしているという要素はあるが、インターネットやSNSも発達する中で、地域福祉でも活用の手法を検討しながら、参加を促進していけるといいのではないかな。

委員：P76の結果の中で、「困ったときに相談できる人がいない」、「相談しない」という方がいる。また、P81で経済的な困窮が疑われる方がいることがうかがえる。仮に自身が困っていたら、相談に出向くのはなかなか難しい。こうしたアンケートで得た結果を活用していけるといいのではないかな。

- 委員 長：相談しない人、相談する相手がいない人を足すと、かなりの割合になる。ご指摘のように、経済的な問題等については自分からは相談しづらい面もあると思う。
- 委員：自身の地域でも、買い物に困っている方がいる。一方で、買い物支援などをボランティアが実施しているが、なかなか利用される方は少ない。淡輪では子どもが親を買い物に連れて行っているケースもある。また、民生委員が3年に1度交代するため、住民との接点を保つことが難しい面もある。
- 委員：自身も買い物支援を行っているが、思ったほど利用希望がないと感じている。ボランティアの方は待機している状況。啓発が必要と感じる。
- 委員：広範囲でのサービス提供ができないことで、利用しづらい面もある。移動距離が増えると制度的にも難しい。
- 委員 長：P33に関連する調査結果がある。「身近な地域での買い物や通院ができないこと」が課題だと感じている方が百人以上となっている。淡輪や多奈川は特に人数が多い。
- 委員：自身は過去に買い物支援サービスを活用したことがあるが、不便だった。迎えに来てくれるが、曜日や時間が区切られてしまう。自分の行きたいところに行きづらく、1年で利用をやめた。
- 委員：淡輪地区は実際に利用者が減ってきているので、ご意見を反映していきたい。
- 委員：近所づきあいのありかたが、昔と今では大きく異なるように感じる。若い方は年寄りの話を聞こうとしない。相談に乗ろうとしても意識が異なるように感じる。回覧板も現在は班長が全部の家に配っている。
- 委員：回覧板はコロナの影響で、各戸に配布するようになった。6月から以前の配布方法を再開するように行政に検討いただいている。
- 委員：今のやり方では、班長に負担が大きく、申し訳なく感じる。また、隣づきあいもなくなる。毎日扉を閉めたままの家が近くにあるが、回覧板のような機会がないと声掛けも難しい。
- 委員 長：自由意見では「回覧板制度をなくしてほしい」という意見もみられる。コロナで社会的接触をなくすという価値観が拡大してしまった影響もあるかもしれない。
- 委員：高齢の方は話しやすいが、若い方には高齢者が声をかけようとしても話しづらい。
- 委員：まずは、だれが通っても挨拶をするような習慣ができるといいのではないかと。自身は家の前を通る方には挨拶をするように心がけている。
- 委員 長：若い方のニーズとして、子どものことには興味があるような状況も見られる。そうした内容が、世代的な分断を乗り越えていくヒントになるのではないかと。
- 委員：連携について、町全体で考えていかないと、福祉計画は難しいと思う。こうした場だけで議論してもわからない部分がある。全員で考えて意見を集約していくような体制が必要。様々な意見は出るが、結論が出ないように感じる。町の福祉は民生委員さんなど、ボランティアの活動によって、どうにか維持されているのではないかと。本来は町がやるべきことや協力して取り組むべきことがみえないように感じる。行政の他の課の方にも参加いただいて、こうした議論を聞いていただけないかと。
- 委員 長：まちづくり全体に関するような課題もあるので、検討いただきたい。
- 事務局：ご指摘はごもっともである。町全体で検討すべき課題だと考えており、今回の会議

の前に、教育等の各関連部署で部会を開催し、情報共有を行っている。一方で、ご指摘の通り、行政の部会では意見が出づらい面もある。

委員：手助けできることがあるか、に対して「何もない」という回答が多いことが一番気になった。コロナを経た現在の時代性を反映していると思う。若い人は忙しく、常に参加するのは難しい。ピンポイントでも参加してもらえれば、将来の活動につながるのではないか。全体的に前回の調査より災害に関する意識が低下していることも気になった。

委員長：他によろしいか。世代の問題や、まちづくり全体の課題といった視点も踏まえて検討いただきたい。

3 地域懇談会（案）について

・事務局より、「資料2 地域懇談会（案）について」を使用し説明。

委員：ペルソナカードとはどういったものか。

※質問を受け、事務局よりペルソナカードの例を配布。

コンサルタント：「困りごと」を漠然と考えていただくのではなく、年齢や性別、特徴等の具体例を示しそうした方が地域で暮らすときに、どのような困りごとを有するか想像していただくためのきっかけとなるためのカードである、イメージはお手元の資料の通りである。

4 子ども懇談会（案）について

・事務局より、「資料3 子ども懇談会（案）について」を使用し説明。

5 今後のスケジュールについて

・事務局より、「資料4 策定スケジュール（案）」を使用して説明。

委員：資料2・3を見ていて、中学生が意見表明をする機会がないように感じる。何かそうした機会がないか。

事務局：ご指摘の通り、中学生や高校生の意見表明の機会がない。第1次計画から「福祉共育」をキーワードに取り組んできたが、その環境整備が中学生までなかなか及んでいない状況がある。今後はそうしたところまで活動を広げていきたい。

6 その他

事務局：今回は、令和5年11月に開催予定。詳細は調整の上、事前にお知らせ予定。

閉会（15時05分）